

11 Community

視聴者コミュニティ

「ETV2001 戦争をどう裁くか『問われる戦時性暴力』」 に関する BPO の意見書が公表されました。

“NHK の生命線である自主・自律の堅持を” NHK の真摯な対応を求める声続々と！

4月28日、従軍慰安婦問題を取り上げたNHKのETV2001「問われる戦時性暴力」改編問題について、NHKと民放でつくる第三者機関・BPO(放送倫理・番組向上機構)の放送倫理検証委員会は、放送直前にNHK幹部が事前に国会議員と面談し、制作担当のチーフプロデューサーらに改編を指示したことについて、「公共放送にとってもっとも重要な自主・自律を危うくし、視聴者に重大な疑念を抱かせる行為」とする意見書を公表しました。報告書は全49頁の力作で「放送人の良心に響く重要なテキスト」(長井暁氏インタビューより)となっています。

また「削除したほうが安全」等の判断で改編・削除が繰り返された結果「放送人の倫理として、当然目指すべき質の追求という番組制作の大前提をないがしろにした」と指摘しました。

意見書は最後に、視聴者の信頼を築くためには、放送の現場で働く職員一人ひとりが、今回の改編の経緯を自ら確かめ、NHKの内部的自由、放送の自律について議論するよう呼びかけています。

この報告書をうけ当「NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ」は5月12日に、NHKとNHK経営委員会に「ETV番組改編問題に関するBPOの意見書公表を受けた当会の見解、質問ならびに要望」を提出しました。この中で、次の2点にご注意いただきたいとおもいます。

1 NHKの説明に重大な自己矛盾が露呈していること
NHKはBPOから寄せられた質問への回答のなかで、問題の番組の放送直前に野島国会担当局長(当時)に同行して松尾放送総局長(当時)が安倍晋三氏と面会したのは野島氏の要望に基づいて予算を説明するためであったと述べています。しかし、以前、NHKは東京高裁での控訴審の渦中にホームページに掲載した「編集過程を含む事実関係の詳細」によると、2001年1月29日、安倍晋三氏との面会に松尾放送総局長が同行したのは、当時、日本の前途と歴史教育を考える会の事務局長だった安倍氏から当該番組について質問される可能性があったためだと記しています。そうだとしますと、松尾氏が同行したのは予算・

事業計画等の説明のためではなく、本件番組の内容を安倍氏に説明するためだったことになり、NHKの説明は明らかに前後相矛盾しています。今回、「視聴者コミュニティ」はこの自己矛盾についてNHKに明確な説明を求めています。

2. 番組改編を検証するための番組の企画・放送を求めたこと

本年3月10日に開催された経営委員会において小林英明経営委員は、権威ある機関であるBPOがETV番組改編問題を取り上げたこと、特にNHKにとって最も大切な政治的な中立性にかかわる問題として取り上げたことを軽視してはならないと発言し、今後の対応方法として改編前と後の番組を放送して比べてはどうかと発言しています。



目次

- 1 頁: BPO 意見書 8 頁: 資料 2
- 2 頁: 長井暁氏インタビュー
- 3,4 頁: 各方面からの意見
- 5 頁: コラム(湯山さん)
- 6,7 頁: 資料 1

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ

e-mail: shichoshacomcommunity@yahoo.co.jp

HP: <http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/blog/>

専用 FAX 変更: 059-222-3165

「WATCH」原稿募集中!



「視聴者コミュニティ」も今回の文書で小林委員のこの意見に全面的な賛意を表し、検証番組の企画・放送を要請しています。

なお、BPOの意見書公表を受けて、福地会長は経営委員会の席上、今後は政治家への番組の事前説明は一切しないと発言したと報道されています。この発言がはたしてNHKの全組織に徹底され、履行されるのかどうか、当日の経営委員会の議事録とあわせ、注視していく必要があると思います。

要望書全文は—資料1—をご覧ください。(6ページへ続く)

BPO 報告書 (2009/4/28)

もう一つはメディアにおける記者や制作者の組織内での内部的自由の問題だ。編集権は誰にあるのか。良心に従った番組制作と、経営側の意向が違ったときにどう解決を図るべきかという点だ。企画を通った個別番組について放送総局長が関与できるのか。組織シヤーナリズムにおいて業務命令を拒否することとは、職を賭すことと同しだ。NHKに限ら

た。一つは、国会対策の野島直樹・総合企画室担当局長(当時)が松尾武・放送総局長(同)とともに官房副長官だった安倍晋三元首相らに放送日(01年1月30日)の前日に説明に行き、その後制作現場に来て番組の作り直しを主導することがあっていいのかがという点。政治的な圧力から現場は守られていると信じて仕事をしてきただけに、あってはならないことが目の前で起きたことは驚きだった。

長井暁氏が発言

NHKは真摯な対応を若い人は勇気を持って

当会の運動のきっかけにもなった「ETV2001問題」それは当時のNHK担当デスク(チーフプロデューサー)長井暁さんの内部告発で始まった。長井さんは毎日新聞のインタビューで4年ぶりに訴えました。(2009/5/4)

放送人の良心に響く

検証委員会の意見をどう評価しますか。

問題を詳細に議論して、論点を明確にし、理論的にも深い内容だ。政治圧力はあったと思ってるが、05年1月に内部告発した際に問題提起しなかったことは一つあった。

裁判では、放送倫理が正面から取り上げられるものではない。BPOで番組の質を論じることが全く問題ない。個人の権利や利益が損なわれたかを審議する裁判と異なって、NHKと民放が共同で設立した機関だからこそ可能な議論だ。



長井暁氏
写真は内部告発時のもの
(2005/1/13)

NHKは検証番組を制作しない考えです。

ず他の放送局や新聞社にもあるだろう。意見書は、政治介入を排除する仕組みやルールがないことを指摘し、内部的自由に関する議論を提案している。放送人の良心に響く重要なテキストでもある。第三者の検証必要

意見書が「番組は完成度を欠き散漫」と指摘したことにNHKは「残念だ」と批判しました。

放送の質の追求は、BPOの設立趣旨にも合致していると思う。意見書は「安定的視点の不在」と指摘したが、全くその通りだ。私は、企画意図が大きく損なわれ、何をテーマにした番組なのか分からない内容になったと指摘してきた。

若人たちに期待

これまでNHKは裁判で係争中だとし、視聴者らに十分な説明をしてこなかった。政治家はもとも物を言いたい人たちだ。責任は、放送番組の内容に影響がないように振る舞う必要があったのに、はねのけられなかったNHKにある。放送局が番組を巡る疑念を払しょくするのだから放送でなければ意味がない。私は第三者による検証が必要だと思っている。

当時デスクだった長井さんと、上司でCPだった永田浩三さん(54)「現在、武蔵大教授」は内部告発から1年半後に制作現場から外され、それぞれ今年2月と3月にNHKを退職しました。異動には不当人事だと批判が出ました。

個人的な理由でNHKを辞めた。放送人として責任を取らなければいけないとずっと思ってきたので、内部告発したことはいまも後悔していない。言わなかったら、もっとつらい人生になったと思う。

異動は、執行部の積極的な意思と言うより自民党の国会議員が処分のないことを国会で取り上げるなど政治に配慮した結果だと思つ。忬度(そんたく)したと言つてもいい。永田さんは裁判で政治圧力があつたことを証言してくれた。組織の意思にそぐわないことを発言するのは大変、勇気が必要だ。意見書も言及しているが、NHKの若い人たちに期待したい。

